

ご使用前に 必ず

PORTATONE

取扱説明書

DSR-500

YAMAHA

MIDIインターフェイス

特長

このたびは、ヤマハポータブルキーボード
DSR-500をお買い求めいただきましてありがとうございました。

DSR-500は、
先進のデジタルテクノロジーを結集して完成された
ライト感覚あふれるエンターテインメントキーボードです。
DSR-500の優れた機能を十分に活用していただくためにも、
本書をよくお読みの上、お使いください。

- 80種類のプリセット音色を内蔵
DSR-500は、プリセット音色を80種類(00~79)内蔵しています。
- 自分で作成した音色を80種類記憶
ボイスパラメーターを設定して、あなたのオリジナル音色を作ることができます。オリジナル音色は80種類まで本体内に記憶します。
- オートベース・コード機能
左手で押さえたコードにしたがって自動伴奏する“オートベース・コード機能”を装備しています。バックキングのパターンは32種類の中から選ぶことができます。
- コードシーケンサー
オートベース・コードによるバックキングパターンを1曲分記憶することができます。
- MIDI端子を装備
電子楽器の国際統一規格である“MIDI(ミディ)端子”を装備していますので、シンセサイザーやシーケンサーなどと接続してシステムを拡大することも可能です。

もくじ

	ページ
ご使用の前に.....	1
1 各部の名称とはたらき.....	2
2 音を出してみましょう.....	3
3 オートベース・コード機能.....	5
4 コードシーケンサーを使って.....	6
5 オリジナルの音色を作ってみましょう.....	7
6 MIDIの諸機能.....	10
◆ コード早見表.....	12
◆ Let's Play.....	14
◆ 故障と誤りやすい現象.....	16
◆ 仕様.....	16
◆ MIDIインプリメンテーションチャート.....	17

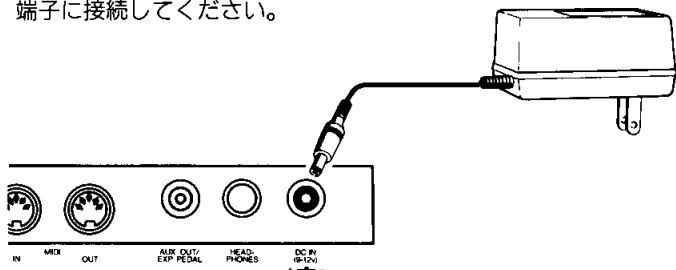
ご使用前に

電源について

電源は、家庭用コンセント（100V）と乾電池のいずれかを使用できます。

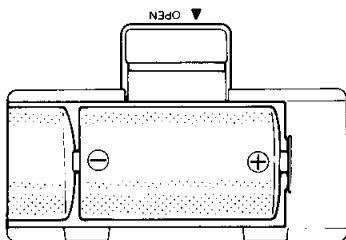
〈電源アダプターの接続方法〉

付属の電源アダプター“PA-1B”を、本機の背面の“DC IN”端子に接続してください。



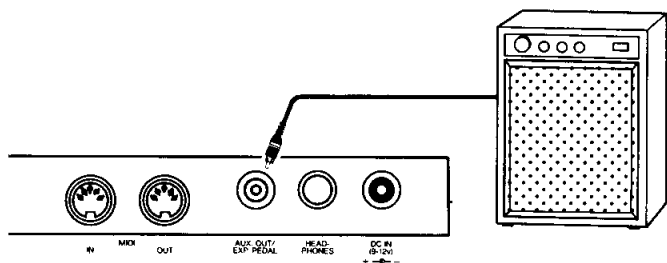
〈電池の入れかた〉

まず、本体裏面にある電池ケースのカバーをはずし、単一乾電池を6本入れます。その際、+/-の方向を間違わないように注意してください。



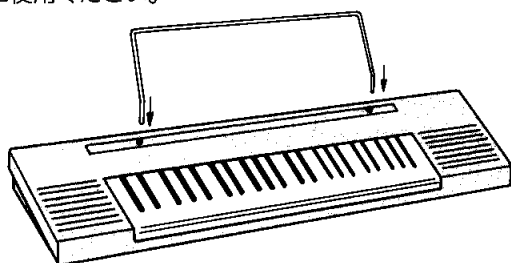
キーボードアンプ等で鳴らす場合

背面の“AUX OUT/EXP. PEDAL”端子とアンプの入力端子を接続します。



譜面立ての使い方

付属の譜面立ては、本体の上にある2つの穴に、その両端を差し込んでご使用ください。



取扱上の注意



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿度やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



無理な力を加えない

過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。



電源の処置

ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。また、長い間使わない時は電池を本体から抜いてください。また、電源アダプターもご使用後は必ずはずしてください。



外装のお手入れ

お手入れは、乾いた布でカラ拭きするか、汚れのひどい時は少し湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製のカバーは使用しないでください。



他の電機機器への影響

テレビやラジオをつけている時に、その近くで使いますと雑音が発生する場合がありますのでご注意ください。



保証書の手続き

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。



保管

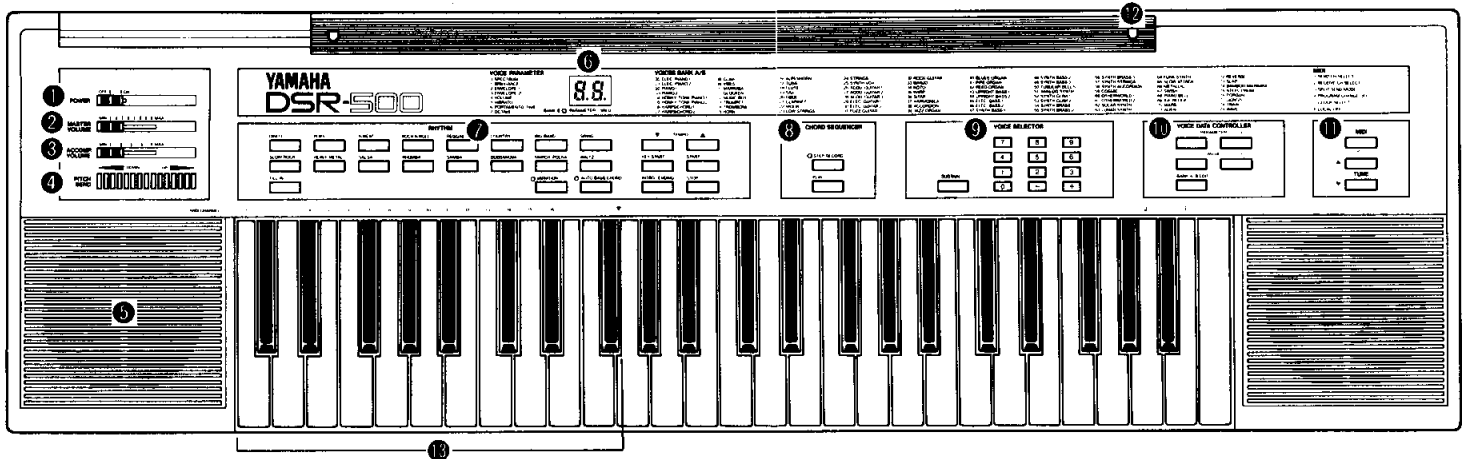
この取扱説明書をお読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境をまもりましょう。

1 各部の名称とはたらき

フロントパネル



①電源スイッチ(POWER)

本機の電源をON/OFFします。

②マスターボリューム(MASTER VOLUME)

全体の音量を設定します。

③アкомпニメントボリューム(ACCOMP. VOLUME)

リズム、およびオートベース・コードの音量を設定します。

④ピッチベンド(PITCH BEND)

鍵盤を弾きながらここを押すことによって、弾いている音の音程をなめらかに上げたり下げたりして、演奏に特徴をつけることができます。

⑤スピーカー

スピーカーは左右に1つずつ装備されていますが、両方とも同じ音を出しています。

⑥ディスプレイ

音色番号や音色データ、テンポなどを表示します。

⑦リズム(RHYTHM)部 (4ページ)

32種類のリズムパターン、オートベース・コードの切り換えと、スタート/ストップを行います。

⑧コードシーケンサー(CHORD SEQUENCER)部 (⇒6ページ)

オートベース・コードを使う場合に、1曲分のコード進行を記憶させる部分です。

⑨ボイスセクター(VOICE SELECTOR)部 (⇒3ページ)

80種類のバンクA音色、バンクB音色を選択します。

⑩ボイスデータコントローラー(VOICE DATA CONTROLLER)部

ボイスセクター部で選んだ音色に、ビブラートをかけたり、音色を明るくする、などの変更を加える部分です。操作方法は7~9ページをごらんください。

⑪MIDI(⇒10ページ)/チューニング部(⇒3ページ)

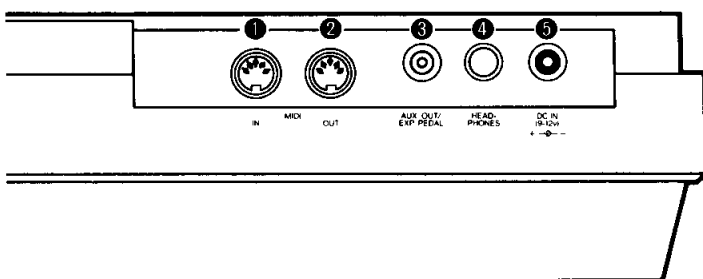
MIDIに関する機能の選択と、チューニングを行います。

⑫譜面立て用穴(⇒1ページ)

⑬オートベース・コード用鍵盤(⇒5ページ)

オートベース・コードの検出鍵域です。

リアパネル



①ミディ入力(MIDI IN)端子(⇒10ページ)

本機が受けとるMIDI信号は、ここに入力します。

②ミディ出力(MIDI OUT)端子(⇒10ページ)

本機が送信するMIDI信号の出口です。

③外部出力(AUX OUT)/エクスプレッション(EXP. PEDAL)端子

キーボードアンプやステレオコンポーネントなどで音を鳴らすとき(⇒1ページ)と、別売のエクスプレッションペダルを使って全体の音量をコントロールするときに使います。

④ヘッドホン(HEADPHONES)端子

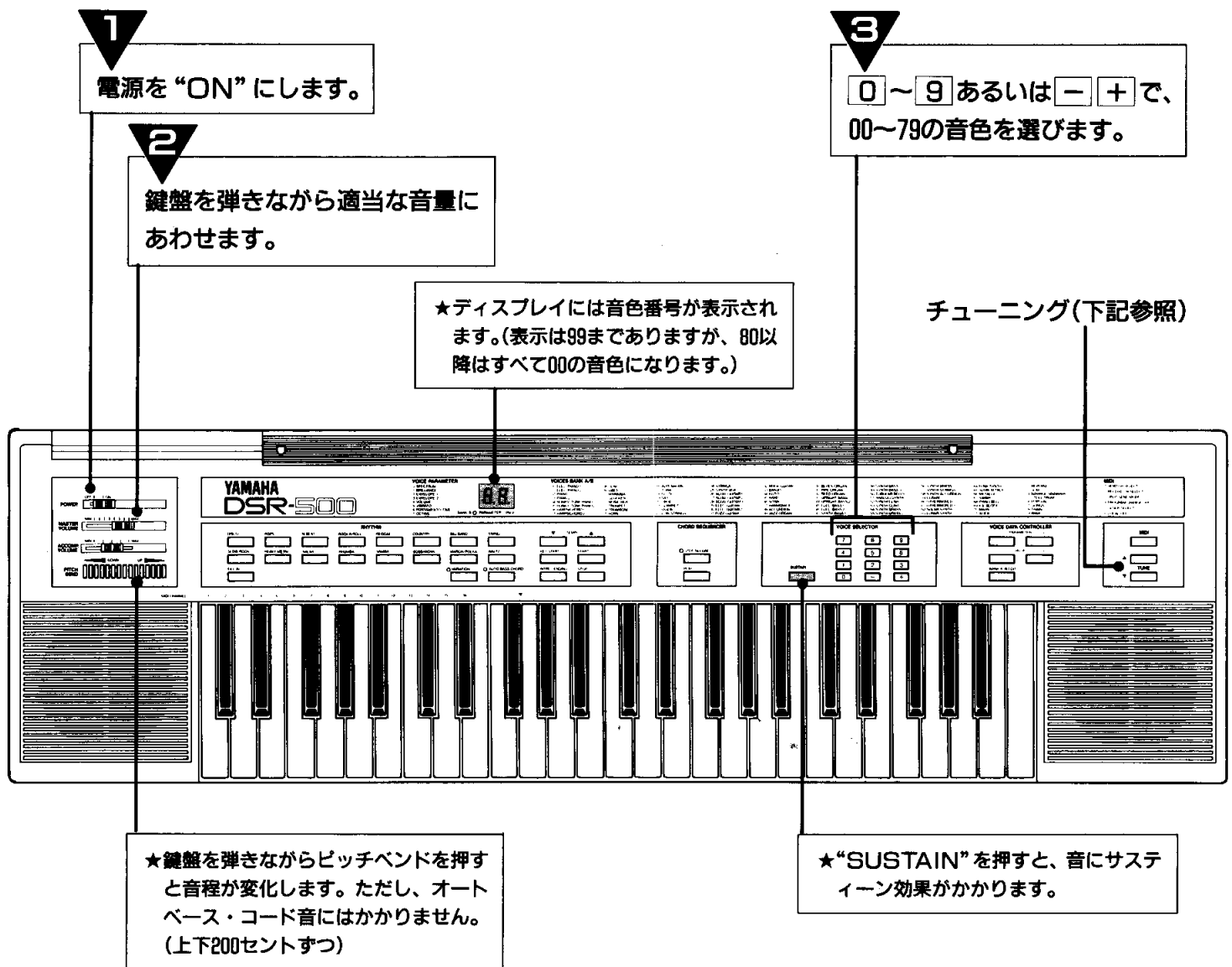
夜間などヘッドホンで音を聴きたい場合は、ここに接続します。このとき、スピーカーからの音は出なくなります。

⑤電源入力(DC IN)端子

付属の電源アダプターを接続し、電源を供給します。

2 音を出してみましょう

プリセット音色を聴いてみましょう



チューニング

本機を他の楽器といっしょに鳴らす場合、双方の音程がズレていると大変聞きづらいものです。あらかじめ、お互いのチューニングを合わせておきましょう。

▲  を押し続けると高いチューニングになります。

▼  を押し続けると低いチューニングになります。

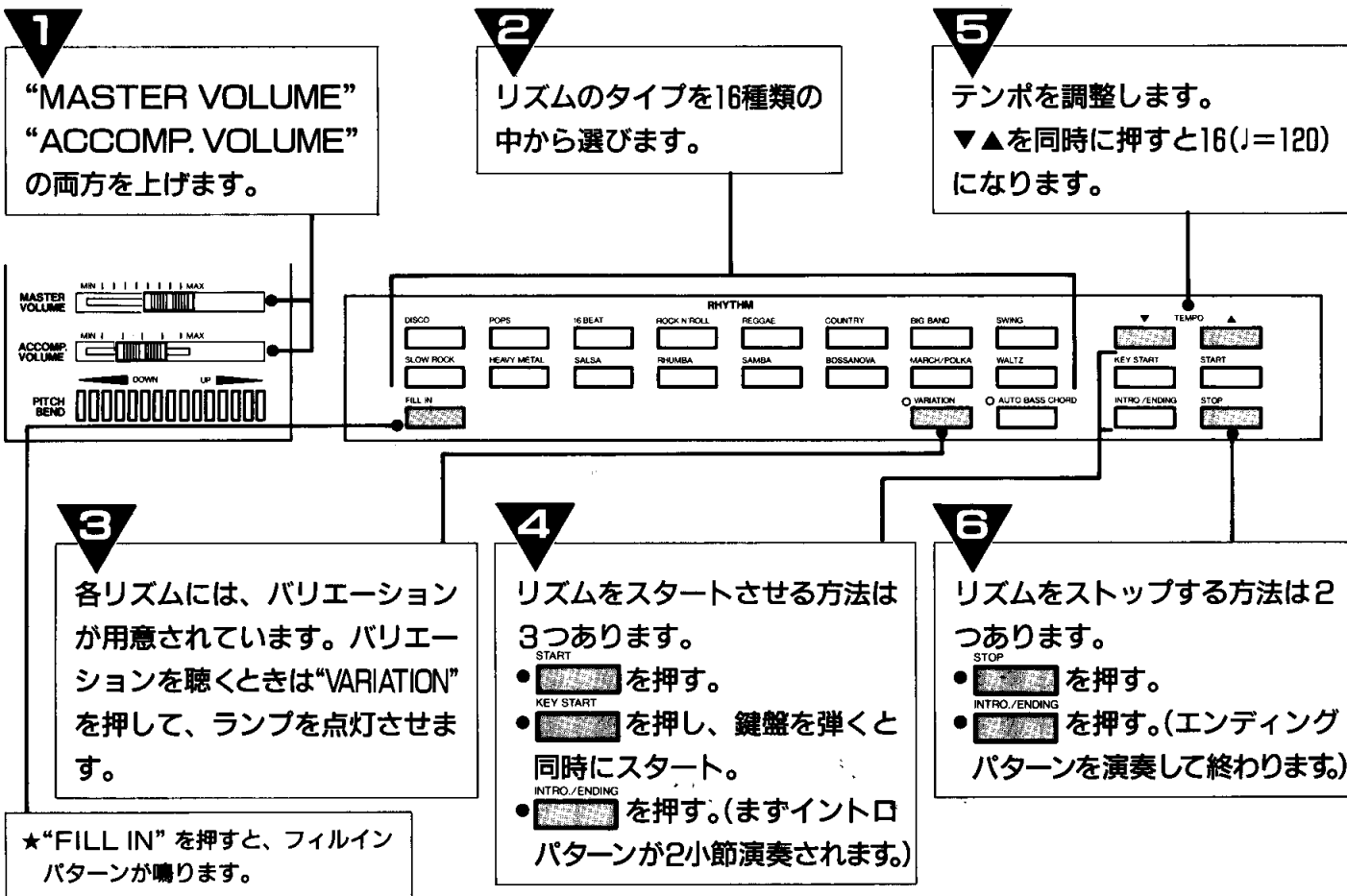
★両方を同時に押すと、ちょうど“A3(まん中のラの音)が440Hz”になります。

★電源ON時はつねに、“A3=440Hz”になっています。

★可変幅は、上下50セントずつです。(100セント=半音)

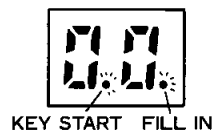
リズムパターンを聴いてみましょう

DSR-500には、32種類（バリエーションも含めて）のリズムパターンが内蔵されています。



★“KEY START”をONすると、ディスプレイ左側のビートランプが点滅し、“FILL IN”をONすると、右側のビートランプが点滅します。なお、両方が点滅した状態でリズムをスタート

させると、1小節のフィルインでスタートします。



表示される数値と実際のテンポの関係

ディスプレイに表示される数値の実際のテンポは、次のようになります。

ディスプレイ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
実際のテンポ	40	48	56	64	70	76	82	88	92	96	100	104	108	112	116	120	126	132	138	144
ディスプレイ	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35					
実際のテンポ	152	160	168	176	184	192	200	208	216	226	236	246	256	268	280					

★電源ON時は、つねに“DISCO”が呼び出されます。
★“FILL IN”を押し続けるとフィルインパターンの演奏を繰り返します。

★4拍目(WALTZは3拍目)に“FILL IN”を押すと、次の小節でフィルインが演奏されます。
★“FILL IN”を押した小節内で、再度“FILL IN”を押すと、通常のパターンに戻ります。

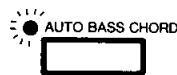
③ オートベース・コード機能

オートベース・コード機能とは

オートベース・コード機能とは、ベースとコード伴奏を、左手で押さえたコードに合わせて自動演奏する機能です。左手でコードを押さえる方法は、次の2つがあります。

- フィンガードコード……………各コードの構成音をそのまま押さえます。(➡13ページ参照)
- シングルフィンガーコード…major, minor, 7th, m7thについて、ルート音だけを指定する方法です。(➡12ページ参照)

これらは、“AUTO BASS CHORD” スイッチを押すごとに切り換わります。



ランプ点灯=フィンガードコード
ランプ点滅=シングルフィンガーコード
ランプ消灯=リズムのみ

★検出できるコードの種類に制限があります。(➡12~13ページ参照)

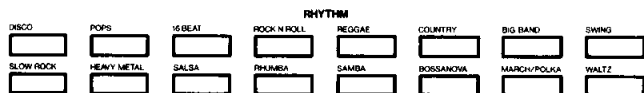
オートベース・コードを使って弾いてみましょう

- ① **AUTO BASS CHORD** を押してオートベース・コード機能をONにします。

このときスイッチの左上のランプの状態によってコードの検出方法(上記参照)が変わります。

- ランプが点灯……………フィンガードコード
- ランプが点滅……………シングルフィンガーコード

- ②4ページと同様にリズムパターン、バリエーションのON/OFFを選びます。



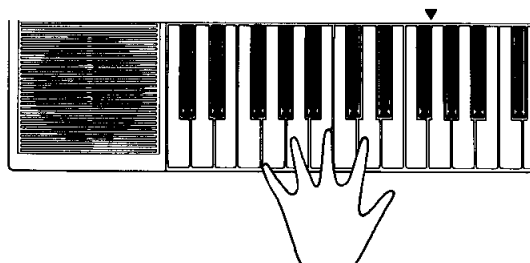
- ③ **START** を押して、リズムをスタートさせます。

●③のほかに、次の2つの方法でもスタートできます。

- ★ **KEY START** を押し、オートベース・コード用の鍵盤を弾くと同時にスタート。

- ★ **INTRO/ENDING** を押す。(まず2小節のイントロパターンが演奏されます。このとき鍵盤を押さえてもベース、コード音は出ません)

- ④“▼”より左側の鍵盤でフィンガードコード、あるいはシングルフィンガーコードを弾くと、コードに合わせてベース・コード音が鳴り出します。



- ⑤ **FILL IN** を押すと、フィルインパターンを1小節演奏します。

- ⑥次のいずれかの方法でストップします。

- **STOP** を押す。
- **INTRO/ENDING** を押す。(エンディングパターンを演奏して終わります)

4 コードシーケンサーを使って

コードシーケンサーとは

コードシーケンサーは、オートベース・コード(→5ページ)のコード進行を1曲分記憶する機能です。これによって、ある曲のベースとコードを自動演奏させそれに合わせてメロディーを弾く、といったことができます。

〈コードシーケンサーに記録できる内容〉

- リズムパターン
- フィルイン
- イントロ
- エンディング (エンディングを入力すると、その時点で録音終了となります)

コード進行を録音してみましょう

1 “STEP RECORD”を押します。(ランプが点灯し、表示が“1”になります。)

2 “フィンガードコード” “シングルフィンガーコード”を選びます。(→5ページ参照)

3 リズムを選択します

4 はじめのコード、あるいはシングルフィンガーコードを弾きます。

5 ④のコードを押さえたまま、そのコードの演奏する長さの音符の鍵盤を押します。
 ♩=1拍 ♪=2拍 ◦=4拍(ワルツでは3拍)
 ♩♪と押すと3拍
 以下③～⑤の操作を繰り返します。
 (同じリズムのときは③は省略できます。)
 ★コードを押さなかった場合は休符が入力されます。

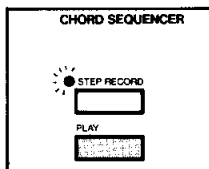
6 “STOP”を押すと、録音を終了します。

ディスプレイには、入力する次の小節数が表示されます。

- ★途中でリズムを変えることもできます。
- ★フィルインを入れる場合は、コードを入力する前に“FILL IN”を押します。このとき音符の長さを表す鍵盤を押す必要はありません。
- ★入力容量は、およそ400個のデータを記録できます。

コードシーケンサーの再生

①コードシーケンサー部の“PLAY”を押します。
 (“STEP RECORD”が点滅します)

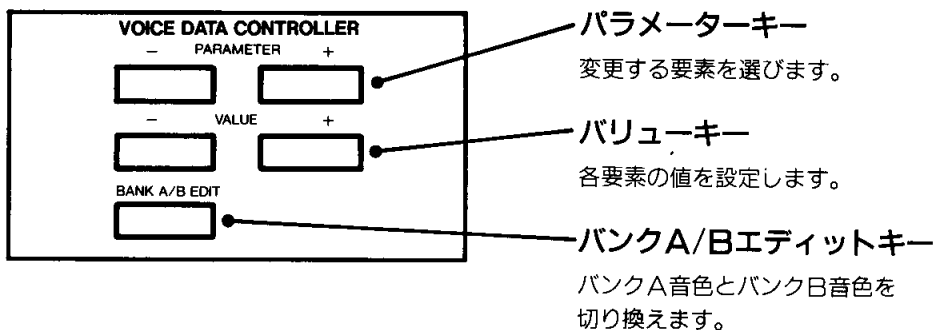


②次のいずれかの方法でスタートします。

- **START** を押します。記録したデータが再生されます。
- **KEY START** を押し、鍵盤を押すと同時にスタートします。
- **INTRO/ENDING** を押してスタートした場合は、最初の2小節間はイントロパターンになるため、ベース・コード音は出ません)

5 オリジナルの音色を作ってみましょう

ボイスデータコントローラー部のキーのはたらき



バンクA音色とバンクB音色


DSR-500はバンクBに80種類の音色をもつことができます。バンクBとは、パラメーターを設定して作成した、あなたのオリジナル音色を保存する部分です。

★バンクB音色の番号(00~79)は、作成するもとなったバンクB音色番号から変更できません。たとえば、バンクB音色“00”のパラメーターを変更して作った音色は、そのまま“00”の音色として記録されます。


★お買い上げ時のバンクBには、バンクAと同じ音色が入っています。

〈バンクA音色を呼び出すには〉


→ディスプレイの左下のランプが消えているときに、ボイスセクター部の[0]~[9]、[+]、[-]で選びます。

(ディスプレイの左下のランプがついている時は、 を押して消してください。)

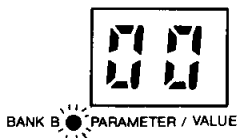
〈バンクB音色を呼び出すには〉

→ を押し、ディスプレイの左下のランプが点灯しているときに、ボイスセクター部の[0]~[9]、[+]、[-]で選びます。



音色作成の手順



①  を押します。(ディスプレイの左下のランプが点灯します)

② [0]~[9]、[-]、[+] で変更するバンクB音色番号を選びます。



③ 下の操作によって、音色を作成します。

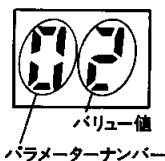
●   でボイスパラメーター(変更する項目)を選びます。(→8ページ参照)

●   でバリュー(それぞれのパラメーターの値)を設定します。

★②で選んだ、初期の音色は消えてしまいます。

★“VALUE”の“-”“+”スイッチを同時に押すと、変更した値が初期値に戻ります。

ディスプレイの表示内容



ボイスパラメーターの解説

0：スペクトラム(SPECTRUM)

音色を決定するもとなる、倍音構成を8段階の中から選択します。バリューを上げるにしたがって、金属的できらびやかな音色になります。硬い音にしたい場合はバリューを上げ、柔らかい音にしたい場合は下げるとよいでしょう。

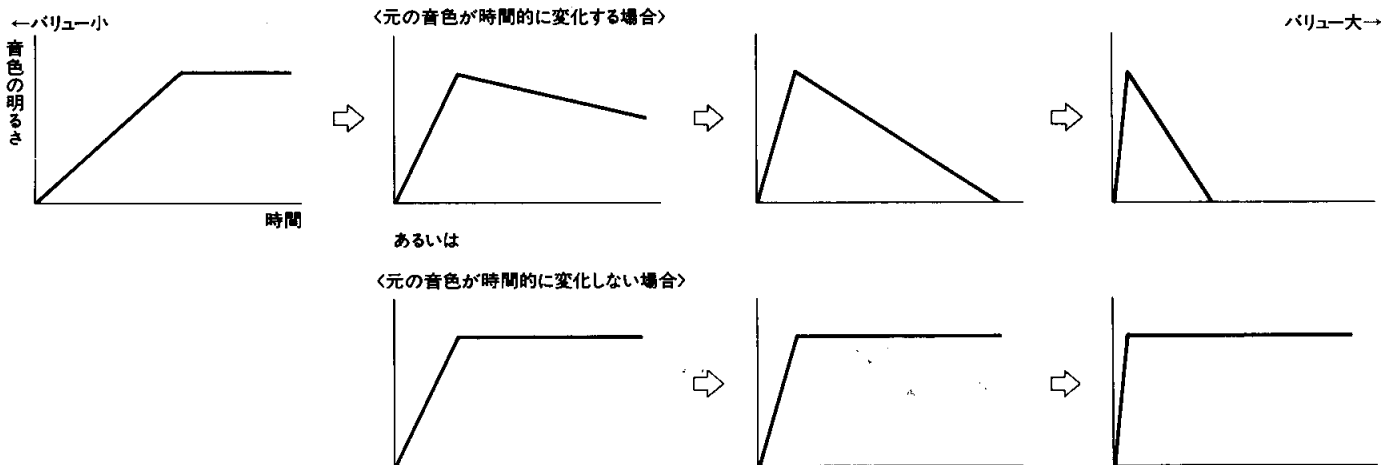
1：ブリリアンス(BRILLIANCE)

音色の明るさを8段階で調整します。バリューを上げるにしたがって明るい音色に、また下げると丸みを帯びた音色になります。音色の明るさを変えることによって、音の厚みやアタック感、硬さなども変わって聴こえることがあります。特に、バックイング(伴奏)用の音色は下げめに、ソロ音色は上げめにするとよいでしょう。

2：エンベロープ1(ENVELOPE 1)

鍵盤を弾いてから離すまでの、音色の明るさの時間的変化を8段階で調整します。バリューが小さいほどアタック時の音色変化が長い、ゆったりし

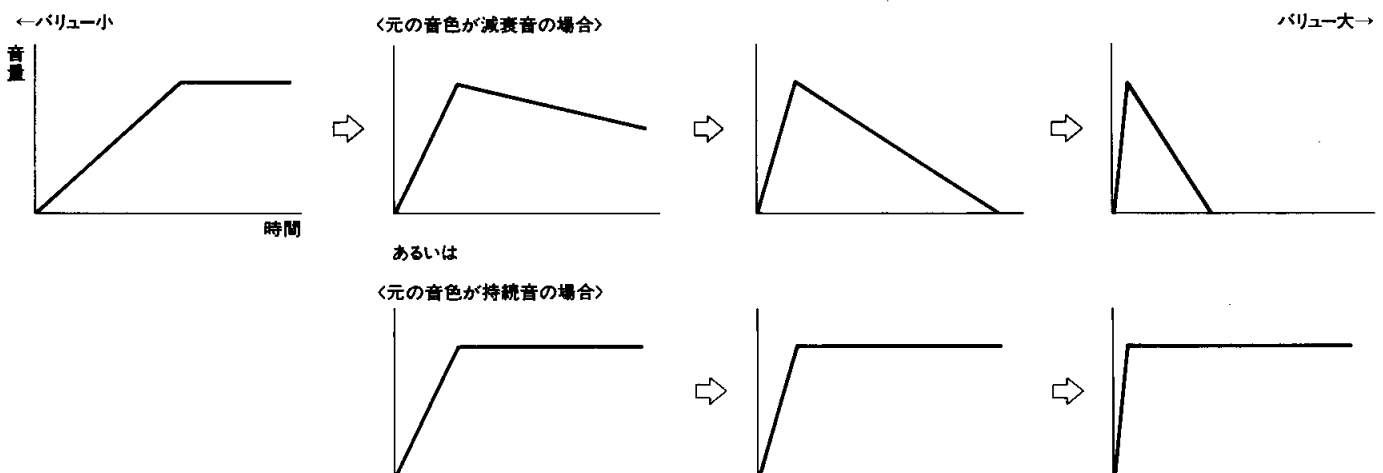
た音になり、バリューを上げるとアタック感のある硬い音になります。プラス系の音色は下げめに、またアタック感の必要なギターやピアノ系は上げめにします。



3：エンベロープ2(ENVELOPE 2)

鍵盤を弾いてから離すまでの、音量の時間的変化を8段階で調整します。バリューが小さいほど立ち上がりの遅い、ゆったりした音になり、

バリューを上げるとアタック感のある硬い音になります。ストリングス系の音色は下げめに、またアタック感の必要なギターやピアノ系は上げめにします。



4：ボリューム(VOLUME)

各音色ごとの音量を8段階で設定します。
ボリュームを上げるにしたがって音量が上がります。
特にスペクトラム、ブリリアンスを上げた音色は、他に比べて音量が大きく感じる場合がありますが、そのような場合はこれを利用して下げてください。

5：ビブラート(VIBRATO)

ビブラート効果の深さを8段階で設定します。
ボリュームを上げるにしたがって、深いビブラートがかかるようになります。
★ビブラート効果をかけたくないときは、ボリュームを“0”にします。

6：ポルタメントタイム(PORTAMENTO TIME)

ポルタメント効果の深さを8段階で設定します。
ポルタメント効果がかかっていると、ある鍵盤を弾いたときに、1つ前に弾いた鍵盤の音程がなめらかにスライドします。
たとえば、“ミ”の音を弾いてから“ラ”の音を弾くと、ミの音がラに向かって滑らかにスライドします。
★ポルタメント効果をかけたくないときは、ボリュームを“0”にします。

7：オクターブ(OCTAVE)

音程をオクターブ単位で移動します。
1……………1オクターブ下
2……………標準値
3……………1オクターブ上

メモリーの消去とバックアップ

▶パワーONリセット

ボイスバンクB、コードシーケンサーに記録されたデータを消去することができます。

〈操作〉

次のように、ボイスセクターの各キーを押しながら、電源をONします。

1. “1”と“0”を押しながら……：ボイスバンクBの音色がバンクAと同じになります。
2. “2”と“0”を押しながら……：コードシーケンサーのデータが消去されます。
3. “3”と“0”を押しながら……：上の1、2両方を同時に行います。

▶メモリーバックアップ

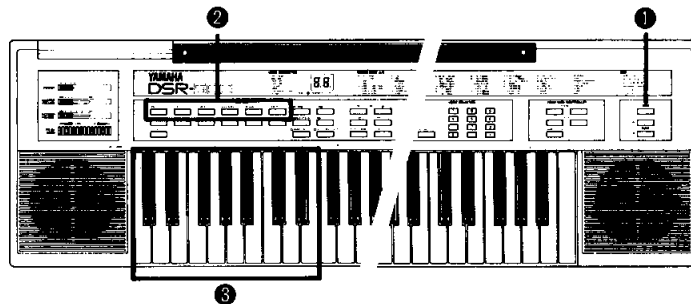
本機に記録された全てのデータは、最低一週間は保存されます。

7 MIDIの諸機能

MIDI機能設定の基本原則

MIDIに関する設定を行うときは、以下の要領で操作します。

- ①“MIDI”を押しながら(リズムストップの状態)
- ②リズム部の“DISCO”～“COUNTRY”のいずれかを押して、機能を選択し、――
- ③左側の17コの鍵盤のいずれかを押して機能を設定します。



MIDI送信チャンネルの設定

本機をマスター(送信側)とする場合のMIDI送信チャンネル(1～16)を指定します。

- ①MIDIスイッチを押しながら、“DISCO”を押します。(ディスプレイは現在の設定チャンネルを表示します)
- ②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤1～16のいずれかを押すことによって、送信チャンネルが設定されます。

★電源ON時はつねに“1”になっています。

MIDI受信チャンネルの設定

本機をスレーブ(受信側)とする場合のMIDI受信チャンネルを指定します。

- ①MIDIスイッチを押しながら、“POPS”を押します。
- ②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤1～16のいずれかを押すことによって、受信チャンネルを限定することができます。

★“16”のとなりの鍵盤(ミの音)を押すと、音色番号表示のLEDディスプレイに“AL(ALL)”と表示されます。これは“オムニモードON”といって、1～16すべてのチャンネルの情報を受信する状態です。

★電源ON時はつねに“AL”になっています。

スプリットセンドモードのON/OFF

スプリットセンドモードをONにすると、オートベース・コード機能を使用したときスプリットポジション“▼”の左側の演奏内容を“2”チャンネル固定で送信します。このときMIDI送信チャンネルを2以外に設定することによって、右手と左手の演奏内容を異なるMIDIチャンネルで送信することができます。

- ①MIDIスイッチを押しながら、“16 BEAT”を押します。
- ②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤の“1”を押すことに、スプリットセンドモードのON/OFFが切り換わります。

★電源ON時はつねに“oF(OFF)”になっています。

MIDIプログラムチェンジの送受信ON/OFF

MIDI情報の中の“プログラムチェンジ(音色切り換え)”について、送受信ON/OFFを切り換える機能です。

①MIDIスイッチを押しながら、“ROCK'N'ROLL”を押します。

②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤の“1”を押すごとにON/OFFが切り換わります。

★電源ON時はつねに“ON”になっています。

同期クロックの選択

本機のリズム部と外部機器(リズムマシン、シーケンサー)の演奏を同期させる場合、本機を外部機器のテンポに同期させる“EXT(エクスターナル)”と、本体のテンポスイッチによってテンポを決める“INT(インターナル)”を切り換える機能です。

①MIDIスイッチを押しながら、“REGGAE”を押します。

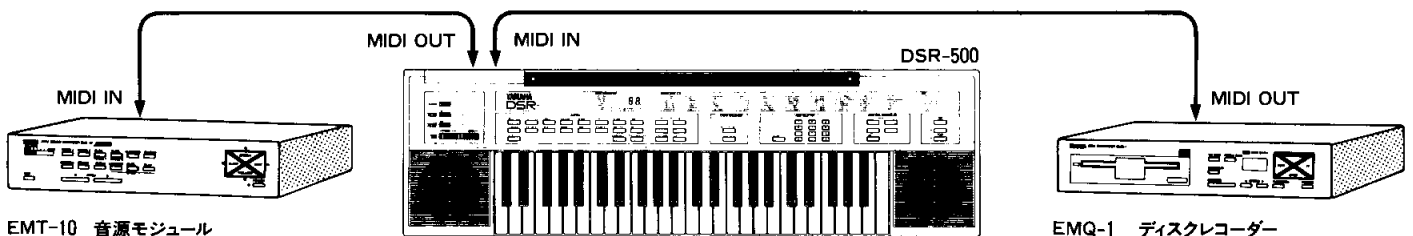
②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤の“1”を押すごとにEXT/INTが切り換わります。

★電源ON時はつねに“I(INT)”になっています。

★“E(EXT)”を選択した場合は、外部機器の演奏をスタートさせないかぎり、本機の演奏もスタートしません。

MIDIローカルコントロールのON/OFF

ローカルコントロールとは、本機の鍵盤部分と音源部分を内部で切り離す機能です。たとえば下のように、本機とMIDI音源モジュール、ディスクレコーダーを接続した場合、本機の鍵盤を弾くと、通常は弾いた音とディスクレコーダーによる本機の演奏の両方が得られます。この状態を“ローカルコントロールON”といいます。



もしここで“ローカルコントロールOFF”にすると、本機の鍵盤は単なるMIDI送信キーボードとしてはたらし、本機の音源部分をコントロールするための鍵盤ではなくなります。したがって上の例だと、本機の鍵盤を弾いたときMIDI音源モジュールは鳴りますが、本機の音は鳴らなくなります。ただし、このときもディスクレコーダーによる本機の自動演奏は行われます。

①MIDIスイッチを押しながら、“COUNTRY”を押します。

②MIDIスイッチを押したまま、MIDI設定用鍵盤の“1”を押すごとにON/OFFが切り換わります。

★電源ON時はつねに“ON”になっています。

コード早見表

◆シングルフィンガーコードとフィンガードコード

オートベースコードのモードには、シングルフィンガーとフィンガードがあります。初心者にも指一本でやさしく自動伴奏ができるのがシングルフィンガーで、そのコードをシングルフィンガーコードといいます。また、通常のコードの押さえ方で自動伴奏を

楽しむのがフィンガードで、そのコードをフィンガードコードといいます。ただし、この場合も13ページに記載されていないコードは検出できません。

〈シングルフィンガーコード〉

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてくる和音の関係を示したものです。



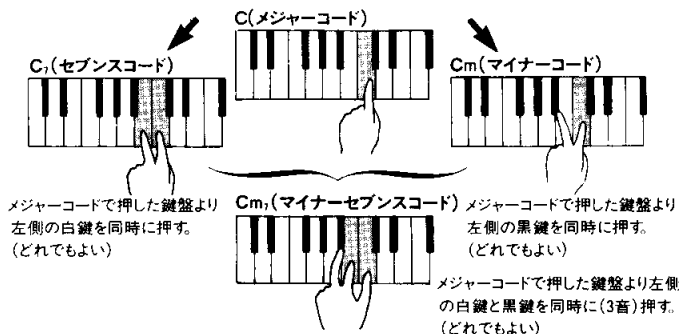
♯、♭のついているコードの出し方

♯がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、♭がついていたら左上の黒鍵をおせば、♯、♭のついたコードがだせます。



セブンスコード、マイナーコードの出し方

アルファベット1文字のコード(C、Dなど)をメジャーコードとありますが、伴奏はメジャーコードだけとは限りません。たとえば(G7)のようなセブンスコード、(Am)のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことで出すことができます。



◆シングルフィンガーコード表

メジャーコード

C	
D [♯] (C [♯])	
D	
E [♯] (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G [♯])	
G	
A [♯] (G [♯])	
A	
B [♯] (A [♯])	
B	

マイナーコード

Cm	
D [♯] m (C [♯] m)	
Dm	
E [♯] m (D [♯] m)	
Em	
Fm	
F [♯] m (G [♯] m)	
Gm	
A [♯] m (G [♯] m)	
Am	
B [♯] m (A [♯] m)	
Bm	

セブンスコード

C7	
D [♯] 7 (C [♯] 7)	
D7	
E [♯] 7 (D [♯] 7)	
E7	
F7	
F [♯] 7 (G [♯] 7)	
G7	
A [♯] 7 (G [♯] 7)	
A7	
B [♯] 7 (A [♯] 7)	
B7	

マイナーセブンスコード

Cm7	
D [♯] m7 (C [♯] m7)	
Dm7	
E [♯] m7 (D [♯] m7)	
Em7	
Fm7	
F [♯] m7 (G [♯] m7)	
Gm7	
A [♯] m7 (G [♯] m7)	
Am7	
B [♯] m7 (A [♯] m7)	
Bm7	

◆フィンガード コード表

※は転回型、他は基本型です。

メジャーコード

C	
D [♯] (C [♯])	
D	
E [♯] (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G [♯])	
G	
A [♯] (G [♯])	
A	
B [♯] (A [♯])	
B	

マイナーコード

C ^m	
D [♭] ^m (C [♭] ^m)	
D ^m	
E [♭] ^m (D [♭] ^m)	
E ^m	
F ^m	
F [♭] ^m (G [♭] ^m)	
G ^m	
A [♭] ^m (G [♭] ^m)	
A ^m	
B [♭] ^m (A [♭] ^m)	
B ^m	

セブンスコード

C ⁷	
D ⁷ (C ^{♯7})	
D ⁷	
E ⁷ (D ^{♯7})	
E ⁷	
F ⁷	
F ⁷ (G ^{♯7})	
G ⁷	
A ⁷ (G ^{♯7})	
A ⁷ ※	
B ⁷ (A ^{♯7})	
B ⁷ ※	

マイナーセブンスコード

C ^{m7}	
D [♭] ^{m7} (C [♭] ^{m7})	
D ^{m7}	
E [♭] ^{m7} (D [♭] ^{m7})	
E ^{m7}	
F ^{m7}	
F [♭] ^{m7} (G [♭] ^{m7})	
G ^{m7}	
A [♭] ^{m7} (G [♭] ^{m7})	
A ^{m7} ※	
B [♭] ^{m7} (A [♭] ^{m7})	
B ^{m7} ※	

メジャーセブンスコード

C ^{maj7}	
D [♯] ^{maj7} (C [♯] ^{maj7})	
D ^{maj7}	
E [♯] ^{maj7} (D [♯] ^{maj7})	
E ^{maj7}	
F ^{maj7}	
F [♯] ^{maj7} (G [♯] ^{maj7})	
G ^{maj7}	
A [♯] ^{maj7} (G [♯] ^{maj7})	
A ^{maj7} ※	
B [♯] ^{maj7} (A [♯] ^{maj7})	
B ^{maj7} ※	

ディミニッシュコード

C ^{dim}	
D [♭] ^{dim} (C [♭] ^{dim})	
D ^{dim}	
E [♭] ^{dim} (D [♭] ^{dim})	
E ^{dim}	
F ^{dim}	
F [♭] ^{dim} (G [♭] ^{dim})	
G ^{dim}	
A [♭] ^{dim} (G [♭] ^{dim})	
A ^{dim}	
B [♭] ^{dim} (A [♭] ^{dim})	
B ^{dim} ※	

セブンスサス・フォーコード

C ^{7sus4}	
D ^{♯7sus4} (C ^{♯7sus4})	
D ^{7sus4}	
E ^{♯7sus4} (D ^{♯7sus4})	
E ^{7sus4}	
F ^{7sus4}	
F ^{♯7sus4} (G ^{♯7sus4})	
G ^{7sus4}	
A ^{♯7sus4} (G ^{♯7sus4})	
A ^{7sus4} ※	
B ^{♯7sus4} (A ^{♯7sus4})	
B ^{7sus4} ※	

Let's Play

GET WILD

作詞：小室みつ子 作曲：小室哲哉

〈ワンポイントアドバイス〉

転調の多い曲ですが、あまりあわてずに、余裕を持ってプレイしましょう。
ノリを大切にして、スタッカートタッチで歯切れよくきめましょう。

Cm Gm A^b B^b Cm E^b F

Cm Gm A^b B^b Cm E^b F

Cm Gm A^b B^b Cm E^b F

ファルトータイヤをきりつ けなーがら くら やみ はしりぬ け る チー

Cm Gm A^b B^b Cm

ブなースリルにみをま かせーても あし たにおびえていた よ It's

Fm7 Cm A^b B^b Cm

your pain_or my pain_or some-bod-y's pain だれ かのた めにいきら れるーなら It's

Cm Gm A^b(G^b) B^b(A^b) F

Fm7 Cm A \flat Gm

your dream or my dream or some-bod - y's dream なに も こ わ く は な

Cm Am G F G C

い Get wild and tough ひ とり では {とけ
けせ

Fill

Am G F G C Am G F G C

ないあいのパズル をだいて } Get wild and tough こ のま ちで {やさ
ないいたみこころ にだいて }

Fill

1. Am G F G C 2. Am G F G C

しさにあまえていた くは ない Get うをもてあました くは ない

Fill

rit.

E \flat (D \flat) Fm7 Am G C

故障と誤りやすい現象

次にあげる現象は故障と間違えやすいものです。故障と思う前にご確認ください。

現象	原因と処置
音が小さい、あるいは出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶本機のマスターボリュームは上がっていますか？ →マスターボリュームを上げてください。 ▶ヘッドホンが差し込まれていませんか？ →スピーカーから音を出すときは、ヘッドホンを抜いてください。 ▶エクスプレッションペダルは踏み込まれていますか？ →エクスプレッションペダルを接続したときは、踏み込んでください。 ▶MIDIのローカルは“ON”になっていますか？ →ローカルを“ON”にします。(→11ページ)
リズム音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶アカンパニメントボリュームは上がっていますか？ →アカンパニメントボリューム(ACCOMP. VOLUME)を上げてください。
他の楽器と音程が合わない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶チューニングは合っていますか？ →チューニングを合わせてください。(→8ページ)

仕様

- 鍵盤
標準鍵盤49鍵
- 音源方式
FM変調方式
- 最大同時発音数
12音
- 音色数
バンクA：80音
バンクB：80音
- ボイスパラメーター
スペクトラム
プリリアンス
エンベロープ1
エンベロープ2
ボリューム
ビブラート
ポルタメントタイム
オクターブ
- ボイスコントローラー
ピッチベンド
サスティーン
- リズム
ディスコ
ポップス
16ビート
ロックンロール
レゲエ
カントリー
ビッグバンド
スウィング
スローロック
ヘビーメタル
サルサ
- ルンバ
サンバ
ボサノバ
マーチ/ポルカ
ワルツ
パリエーションON/OFF
フィルイン
イントロ/エンディング
テンポ▲▼
スタート
ストップ
キースタート
- オートベース・コード
フィンガード
シングルフィンガー
- コードシーケンサー
ステップレコード
プレイ
- ボイスデータ・コントローラー
ボイスパラメーター・-/+
バリュー・-/+
バンクA/B
- マスターコントローラー
マスターボリューム
アカンパニメントボリューム
チューニング
- MIDI
センドチャンネルセレクト
レシーブチャンネルセレクト
スプリットセンドモード
プログラムチェンジ
クロックセレクト
ローカル
- 付属端子
MIDI IN
MIDI OUT
AUX OUT/EXP. PEDAL
HEADPHONES
DC IN(9-12V)
- メインアンプ
2.5W
- スピーカー
12cm(8Ω)×2
- 電源
電源アダプター(PA-1B)
単一乾電池×6
(連続使用5時間)
- 消費電力
電源アダプター使用時:7.5W
乾電池使用時:2.5W
- 寸法・重量
間口982×奥行282×高さ104mm・4.5kg
- 標準装備品
譜面立て
電源アダプター(PA-1B)
- オプション
MIDIケーブル(MIDI-03) 3m ¥1,100
エクスプレッションペダル(EP-1) ¥2,400
ステレオヘッドホン(HPE-5) ¥5,500

[DSR-500 MIDI Implementation Chart]

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1-16	1 1-16	
Mode	Default Messages Altered	3 X *****	1 OMNI on, OMNI off X	
Note Number	: True voice	36-84 *****	36-84 36-84	
Velocity	Note on Note off	X 9n, v=64 X 9n, v=0	X X	
After Touch	Key's Channel's	X X	X X	
Pitch Bender		O	O	
Control Change 64		O	O	Sustain
Program Change	: True #	O 0-99 *****	O 0-127 0-99	
System Exclusive		X	X	
System Common	: Song Pos : Song Sel : Tune	X X X	X X X	
System Real Time	: Clock : Commands	O O	O O	
Aux. Messages	: Local ON/OFF : All notes off : Active sensing : Reset	X X O X	O O (123, 124, 125) O O	

Notes

Mode 1 : OMNI ON, POLY
Mode 3 : OMNI OFF, POLY

Mode 2 : OMNI ON, MONO
Mode 4 : OMNI OFF, MONO

O = Yes
X = No

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。

(日本国内のみ有効)

●保証期間の1年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項を一度お読み頂き、お確かめください。(ご依頼をお受けて点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、方々やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4322
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ㈱高松店内 TEL.0878-51-7777,22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ㈱名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター TEL.011-513-5036
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-6711
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

本 社

シングルキーボード事業部 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(60)3275

東京営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3130

東京特販営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3130

大阪営業所 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL.06(252)7491

名古屋営業所 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5150

九州営業所 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-5
TEL.092(472)2152

北海道営業所 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター
TEL.011(512)6113

仙台営業所 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
TEL.022(222)6141

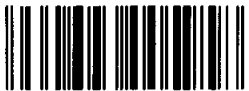
広島営業所 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3749

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693005958